

令和7年6月30日（月曜日）

佐伯市立本匠中学校 芦刈 右京先生の授業です。

授業の単元は、第1学年「文字と式」。長さが等しい棒を並べて、正方形を横一列につくっていくときに必要な棒の本数の求め方を見だし、その求め方を文字式で表現したり、他者が表現した文字式から求め方を読み取ったりする場面です。

導入において、前時までの学習内容の振り返りを行う際に、ICTを効果的に活用し、選択式問題（制限時間あり）にゲーム形式で取り組むことにより、生徒の意欲を高める工夫がなされていました。

また、正方形に並べた棒の本数の求め方について、生徒が見通しをもてるように具体物を用いて考えさせるなど、生徒の学習状況に応じた手立てを準備していました。

生徒とのやり取りの中では、「複数の式があるけど、どのようにしたら同じ式になると判断できるか」と問い掛け、代入の考え方を想起させるなど、生徒の思考を深めさせるような発問を心掛けていました。

事後研では、授業力向上アドバイザーも参加し、生徒が過不足なく数学的な表現を用いて説明する力を伸ばすために、説明のゴールを教師が描くとともに、本県が示す※「算数・数学の学習で説明する力を伸ばす基本形」を意識した授業を展開することなどを確認しました。メモを取りながらアドバイスを真摯に受け止める姿勢を見て、今後が楽しみになりました。

※「算数・数学の学習で説明する力を伸ばす基本形」掲載場所

大分県教育委員会ホームページ

「算数・数学の学習で説明する力を伸ばす基本形」

(<https://www.pref.oita.jp/site/kyoiku/2001409.html>)

